

新任教員紹介

建築学科・特任准教授 河内一泰

略歴

1973.12	千葉県生まれ
1992.03	千葉県立千葉東高校 卒業
1993.04	東京藝術大学美術学部建築科 入学
1998.03	同上 卒業
1998.04	東京藝術大学美術研究科建築専攻 入学
2000.03	同上 修了
2000.04-2003.03	株) 難波和彦+界工作舎 勤務
2003.03-	河内建築設計事務所 設立
2008.04-2019.03	芝浦工業大学工学部建築学科 非常勤講師
2008.04-2010.03	京都精華大学デザイン学部建築学科 非常勤講師
2010.04-2015.03	日本大学理工学部建築学科 非常勤講師
2012.10-2019.03	東海大学工学部建築学科 非常勤講師
2013.04-2015.03	東京藝術大学美術学部建築科 非常勤講師
2016.04-2018.07	武蔵野美術大学造形学部建築学科 非常勤講師
2017.04-2019.03	千葉工業大学創造工学部建築学科 非常勤講師
2019.04-	現職



担当科目

建築デザイン演習 4, 建築設計論 1・2, 入門ゼミナール, 卒業研究, 卒業論文・卒業設計, 大学院建築設計スタジオ 2

研究活動内容

空間の「かたち」に関する研究と実践

本研究の目的は豊かな建築や街の「かたち」とは何かを考え理論化することである。我々が生活している空間は建築以外のさまざまな要素と合わさって出来ている。その中で建築は物理的な状況をつくるものであり、使われ方が変化しても廃墟になっても形が残り、その形のもつ空間性は保たれる。平たく言えば建築は「かたち」のデザインであると言える。「かたち」とは丸三角四角などの形だけでなく、プロポーションや角度、繋がる隔てると言った関係性をつくる形式も含まれる。そのため敢えて「かたち」と表現している。

「かたち」という共通項をもって世界を見れば、建築作品だけでなく日常的な建物からも学ぶことができるし、住宅、商業施設、小学校などプログラムやスケールの違う建築同士も横断的に扱うこと

ができる。もっと視野を広げて見れば、人工物と自然、古いものと新しいもの、建物と街、道やトンネルや駅の空間、田園や森や山頂の風景など個々の属性やスケールの違いを超えてフラットに比較や分析することができ、建築をつくるための理論を深めることができるのではないかと考えている。

また、そのような基礎的な研究を応用し実際の建築設計へ展開している。近作では立体的な繋がりをもつ建築のかたちをいくつかのバリエーションとして試みているが、その背景として日本が2000年を境に人口減少の時代に入ったことが挙げられる。以前の人口が増加している時代はより多くの人のために空間を分割する事が求められたが、減少している時代には分割された空間をつなぐ事が求められる。それは整理分割された機能的な建築ではなく、偶然の楽しさや空間の豊かさを目指した建築への試みであると考えている。

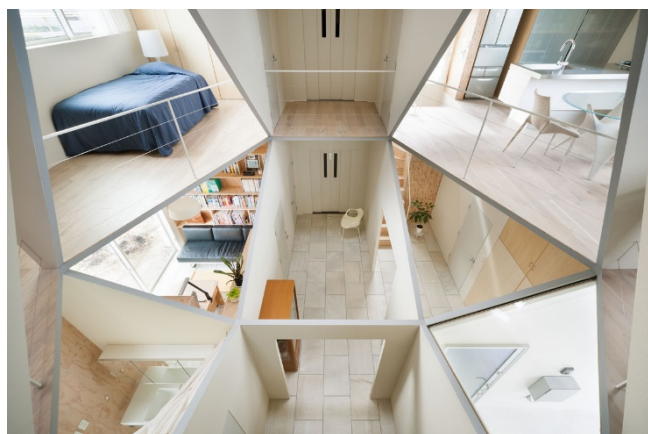


「アマダハウス」

静岡県・御殿場市 2011.3 竣工

設計：河内建築設計事務所

アマダくじの縦線のように柱を建て、その後ランダムに横線を書き入れるよう床を配置した住宅。

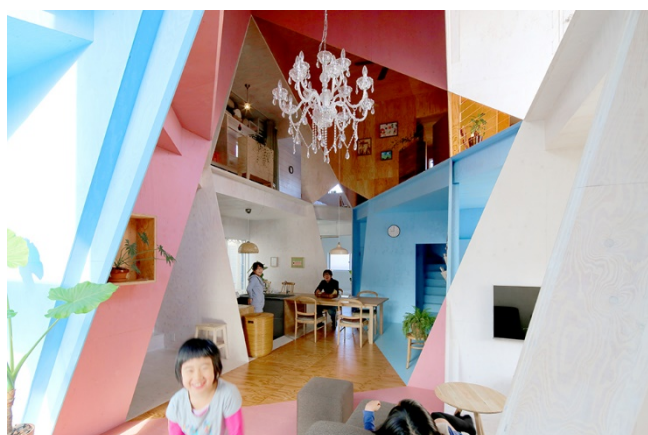


「カメハウス」

新潟県・新潟市 2013.9 竣工

設計：河内建築設計事務所

1つの箱を壁や床によって12の部屋に分割し、中央に多面体の穴をあけた住宅。敷地の亀田という地名から六角形の家を設計して欲しいとの要望から六角形のボイドをもつ住宅を提案した。



「アパートメントハウス」

千葉県・千葉市 2014.3 竣工

設計：河内建築設計事務所

8戸の住戸が入った木造2階建てアパートを1家族のための1戸建てにリノベーションした住宅。分割された部屋を多面体の穴によってつないでいる。



「アナハウス」

東京都・杉並区 2016.10 竣工

設計：河内建築設計事務所

アパートメントハウスでの形式を発展させた住宅。新築の狭小住宅のため、壁床の交差部を工夫し、より高密度な風景をつくった。



「タンザクハウス」

愛知県・豊田市 2018.10 竣工

設計：河内建築設計事務所

XYZのグリッド軸線に幅を与えタンザク化し、それらを交錯させた住宅。たくさんの場所をつくりながら緩やかに繋りを持つ立体的な空間をつくっている。